

第 81 回麻布獣医学会 特別講演

動物園の新たな試みと経営再建

小菅 正夫

旭川市旭山動物園 園長

旭川市旭山動物園は、1967年に開設された日本最北の動物園である。開園期間は、4月末から10月中旬までの約半年間で、気候条件の厳しい冬期間は閉園とした。

開園当初は40万人前後の入園者数を維持してきたが、全国的なテーマパークの開設などによって、有料入園者数が減少しはじめ、旭川市は大型遊具の導入に踏み切った。入園者数は59万人に達し、効を奏したかに思えたが、その後入園者数は激減し、閉園の噂も流れはじめた。

その間、我々飼育係は、動物園のあり方を模索し、希少動物の繁殖研究や野生復帰技術の習得などに励みながら、野生動物の魅力を伝える事業展開を実施していた。そんな矢先の1994年、ローランド ゴリラがエキノコックスで死亡し、まさに存続の危機が訪れた。旭山動物園は途中閉園し、対策を実施し翌年には開園し、私が園長に就任したのだが、1996年には過去最低の入園者数26万人を記録した。

しかし、ついに我々が提唱する、野生動物の魅力

を感動的に伝える“行動展示”のための施設を建設する予算が認められた。3次元空間を利用するヒョウやエサを探して能力を発揮するニホンザル、水中を飛ぶペンギンたち、オランウータンの空中散歩、水中を華麗に泳ぐホッキョクグマ、マリノウエイを通り抜けるアザラシなど、それぞれの行動によって、彼等の形態が説明する必要もないくらい必然であることが理解できる展示となった。また、1999年からは冬期間も開園し、雪のなかでも元気な動物たちが評判となり、沖縄や台湾など雪のない地域からの来園者も増え始めた。

旭山動物園では、毎年のように新施設を建設し、マスコミの注目を受けるようになり、比例して入園者数も伸び続け、2005年度の入園者数は206万人を超え、上野動物園に次ぐ入園者数を記録した。これは、旭山動物園が“動物園のあるべき姿”を追求した結果の記録であり、今後も継続していきたいと考えている。